

幻の高級魚“スマ”研究の歴史 ～元祖養殖スマができるまで～

1 研究の背景

和歌山県の海面養殖はマダイが主流となっていますが、えさ代の高騰などから養殖漁業者の皆様から成長が早く、しかも初期投資の少ない新しい養殖対象魚種の開発を望む声がありました。幻の高級魚“スマ”はマダイ用の生け簀をそのまま利用でき、成長も早いうえ、たいへんおいしいことから消費者の皆様からの人気が高まるものと期待できます。そこで、国立大学法人東京海洋大学、株式会社丸東とともにスマの卵から販売サイズに達するまでの技術開発に取り組みました。なお、和歌山県水産試験場では、このうち、養殖用スマの種苗を生産する技術開発を行いました。



初めて越冬に成功したスマ人工種苗

2 研究体制

親魚養成・採卵	種苗生産	沖だし後の養成
東京海洋大学	水産試験場 株式会社丸東	東京海洋大学 株式会社丸東

3 研究の歴史

年度	実績
H24	“スマ”の研究を開始
H25	・日本で初めて、スマ人工種苗（人工的にふ化させた稚魚）の量産化に向けた技術開発に成功（1回で1,122尾を生産）
H26～ 27	・日本で初めて、スマ人工種苗が海上生け簀での越冬に成功（500尾） ・11月1日現在、100尾程生残（全長40cm）

4 研究成果の公表

白石智孝・濱地寿生・奥山芳生・中西一・竹内裕・矢澤良輔・吉崎悟朗. スマの養殖技術の開発ー1 15トン円形水槽を用いた種苗生産試験. 平成26年度日本水産学会春季大会. 北海道大学函館キャンパス, 北海道函館市, 2014年3月30日.
口頭.

有本一平・白石智孝・加藤文仁・奥山芳生・中西一・東剛久・石田昌史・矢澤良輔・竹内裕. スマの養殖技術の開発-2 種苗生産におけるシロギス受精卵との適性混合比の検討. 平成 27 年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学品川キャンパス, 東京都港区, 2015 年 3 月 29 日. 口頭.

土岐隼一・白石智孝・加藤文仁・奥山芳生・中西一・東剛久・矢澤良輔・竹内裕. スマの養殖技術の開発-3 中間育成時の養殖特性の解明. 平成 27 年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学品川キャンパス, 東京都港区, 2015 年 3 月 29 日. 口頭.

スマの完全養殖に向けて

